

礼拝 2020年6月28(日)

題 『美しい門』のそばで

テキスト：使徒言行録による福音書3：1～10

(聖書箇所は最後です。)

梅雨の合間に、青空が広がり緑の美しさを感じることができることを感謝します。

今日の聖書の箇所は、ペンテコステを迎え、神の力である聖霊を受け、弟子たちが外に出て、主イエスの名を伝えるようになった時に起こった出来事が記されています。

聖書には、「1:ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。」とあります。約2000年前当時のユダヤ教では、日に3回、朝、昼、夕の神殿での祈りの時が決められていました。この午後3時の祈りの時というのは、3回目の夕べの祈りの時にあたると言われています。イエスの弟子たちは、教会が生まれた最初の頃は、毎日神殿に行って神さまを礼拝していたようです。後には神殿から離れていくようになります。この神殿はヘロデ大王が修復していた第2神殿と言われ、とても豪華な建物だったと伝えられています。

「2:すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日「美しい門」という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。」とあります。

「美しい門」と人々に呼ばれていた門、きっと美しかったのでしょう。そこに、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来たのです。彼は、神殿に礼拝に来る人たちに毎日施しを乞うて生きていたようです。聖書を読んでいくと彼は40歳を超えていたようです。この男の人は、生まれてからずっと足が動かず、40年という人生のほとんどを生きていたこととなります。多分できる治療は、すべてやったのですが効果はなかったのでしょうか。重い重荷と現実を抱えていたのです。そこに、ペトロとヨハネが通りかかったのです。

ペトロとヨハネは、エルサレムに生まれたばかりの「イエスにつながる群れ」(教会)のリーダーだったようです。「3:彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しを乞うた。」とあります。これはいつものことだったでしょう。毎日のことです。彼の日常なのです。ここから先、「見る」という言葉が多く出て来ているのに気づくのです「見る」ということばには、「ちらっと見る」「心をこめてじっと見る」などいろんな人間の心を表す内容があります。

彼は、この時、神殿に入る二人をいつものように、ちらっと見たのではないかと思います。おそらく二人は、立派な服は着ていませんし、むしを粗末な服

ではなかったでしょうか。彼は、長年の経験からお金を持っているかどうか、見ぬく力は養っていたことでしょう。

さて、ここからです。

「4:ペトロはヨハネと一緒に彼を **じっと見て**、「わたしたちを **見なさい**」

と言った。」二人は、この男をじっと見たのです。自分たちに注意を向けるように促します。これは、相手にかかわりを持つという強い意志の表れと言ってよいと思います。

それに対して、この男は、長年の経験から何かもらえと思ったのかもしれませんが。

「5:その男が、何かもらえと思って二人を **見つめていると**、」

この時の「見る」は、最初二人を見た時とは違い、期待して、求めて見るように思えるのです。

そこで、あの有名な言葉が、語られたのです。

「6:ペトロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と。

この言葉に力があつたのです。この言葉と共に、神の力が働いたのです。

神の働きがこの言葉を生み出したと言ってよいのです。

二人は、確かに銀や金は持っていなかったのです。そこで「持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と言います。

長く、門の下に置かれ続けた人。宗教的にも障害を負った人は神殿の中に入ることができない時代、厳しい差別のあった時代です。そのような中、自分が本当は何を求めているのか、分からないようになっていたかもしれない人。「美しい」と呼ばれた門のそばで淋しく孤独の内に座っていたと思うのです。ペトロとヨハネは、この一人の人と向き合い、じっと見て、「持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と呼びかけました。

ことばが溢れ出したのです。

「ナザレの人イエス・キリストの名によって」。ナザレ地方で育てられたイエス、人間そのものです。しかし神の子であり救い主、キリストです。それがイエス・キリストです。「名」は、単なる記号ではなく、力を表します。「ナザレの人イエス・キリストの名によって」ということを、置き換えて理解すれば、神の力と愛そのものであるイエス・キリストの愛と力の中をこれからは生きていきなさい、と受けとるのです。

これは、単なる忠告ではないのです。神の力であり愛の福音なのです。神さまから与えられた生きるエネルギーなのです。イエス・キリストが働いてくださり、彼を立たせたのです。ペトロとヨハネ自身が、イエスの弟子として立ち上がった体験でもあるのです。

人間は、どんなに立派で強く見える人でも、誰かに助けてもらえなければ、一人では生きていけないのです。「我に来よ。」と主イエスは言ってくださっているのです。これは、神さまから、すべての人が与えられている新しいいのちなのです。新しいことが起こって行くのです。今まで気づかなかった世界が開かれて行くのです。

「7:そして、右手を取って彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、

8:躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行った。

」 ペトロとヨハネは、男の人の「右手を取って彼を立ち上がらせた」のです。これは大切なことだと思うのです。私たちは、何らかの形で人を助けて、また助けられて生きていけるのです。言葉と行いを通して、神の愛は必ず実現して行くのです。

みなさん、今日の生まれつき足の不自由な人の上に起こった癒しの出来事は、実は、私たち一人一人の上に起こった、またこれからも起こりえる物語でもあるのではないのでしょうか。まことに、うるわしい、美しい物語だと思わずにはおれません。「8:躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行った。」

わたしたちも、元気な時も、病気の中でも障害を負っていても、神さまの愛と力の中を生きて行けますし、生きて行きたいと願います。

- 1:ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。
- 2:すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日「美しい門」という神殿の門のそばに置いてもらっていたのである
- 3:彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しを乞うた。
- 4:ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。
- 5:その男が、何かもらえんと思って二人を見つめていると、
- 6:ペトロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」
- 7:そして、右手を取って彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、
- 8:躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行った。
- 9:民衆は皆、彼が歩き回り、神を賛美しているのを見た。
- 10:彼らは、それが神殿の「美しい門」のそばに座って施しを乞うていた者だと気づき、その身に起こったことに我を忘れるほど驚いた。

